

施設メロン栽培管理技術の習得と 販路確保による取り組み定着

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

対象のM氏、N氏は令和4年に「たかしま野菜・園芸塾」(主催:高島地域農業センター)に参加され、令和5年に園芸塾で学んだ少量土壌培地耕によるメロン栽培に取り組みられることになりました。しかし、2名とも初めてのメロン栽培となることから栽培システムの構築、栽培技術の習得および販路の確保が課題となっていました。そこで、M氏、N氏を対象に栽培技術指導や関係機関と連携した販路確保に向けた支援を行いました。

【普及活動の内容】

(1)栽培システム設置・栽培技術支援

少量土壌培地耕システム設置にあたり必要資材リストとシステム設置のスケジュール作成を支援しました。定植後は培養液濃度や給液量が生育ステージに合わせて適切にされているか個別巡回指導を通じて確認し、給液量や濃度を調整するよう提案しました。また生育後半は病害虫発生前の予防防除が実施されるよう助言指導しました。



写真1 少量土壌培地耕システムメロン栽培

(2)販路確保に係る関係機関との調整

M氏、N氏に対して栽培後の販路について聞き取りを行い、2名の販売計画を明確にしました。その後、直売所等の販路を確保されていない生産者の販路を確保するためにJA担当者に販路の確保を要請しました。要請にあたってJA担当者とは年度当初から協議を行い、生産者の規模や予想される出荷量に対して販路の確保が可能であるかを確認しました。その後は予想出荷時期をJA担当者と情報共有することで確実に出荷販売されるようにしました。

【普及活動の成果】

M氏、N氏両名が少量土壌培地耕システムを目標時期に設置することができ、適期に計画されている株数を定植できました。一方で可販果率は76%と病気の発生もあり、目標の90%には届きませんでした。糖度15度と高品質なメロンが生産できました。次年度は病気の予防防除の実施等、適期作業による可販果率向上に向けて支援していきます。

◎対象者の意見

生育後半に病害虫の発生や裂果等で減収はあったが、JAを通じて全て目標とする単価で販売ができた。道の駅からの出荷の打診も頂いており、次年度は倍の株数で栽培を予定している。引き続き助言指導をお願いしたい。(M氏)